

第 8 回放射能クロスチェック実施要領

(一社) 日本環境測定分析協会
放射能測定分析技術研究会

1. 試験番号 RADI2019-01

2. 試験名 調製固体試料（ゼオライト）の放射能濃度

3. 試験項目及び濃度範囲

試験にあたっては、下記の濃度を参考にしてください。

試験項目	濃度範囲	備考
^{134}Cs 、 ^{137}Cs	4~200 Bq/kg	500mL ポリビン 2 本

Cs-134 の値は、かなり低くなっております。 Cs-137 と同様に評価しますが低濃度試料の測定における測定条件、測定精度の検討資料にさせていただきますので無理に測定時間を長くする必要はありません。

4. 試料の調製法

飛灰溶出液を濾過後、ゼオライトに吸着させ乾燥したものを。

5. 試料の配布

Cs-134 及び Cs-137 を含む試料 2 濃度
宅配便で送付します。

6. 試料の保存

放射線量は低いため、特別な管理をする必要はありません。

7. 分析方法

試料は、500mL ポリビンで送付しますので、各自測定容器に詰め測定してください。

測定は、ゲルマニウム半導体検出器、または NaI シンチレーションスペクトルメータをもちいて、 ^{134}Cs 、 ^{137}Cs それぞれの放射能濃度または合計 ($^{134}\text{Cs}+^{137}\text{Cs}$) の放射能濃度を Bq/kg-dry として測定してください。

試験方法は、ゲルマニウム半導体検出器については、文部科学省の放射能測定シリーズ 7 「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリー」平成 4 年改訂、NaI シンチレーションスペクトルメータについては、文部科学省の放射能測定法シリーズ 6 「NaI(Tl)シンチレーションスペクトルメータ機器分析法」昭和 49 年に準拠とする。

これ以外の分析方法を用いた場合は、分析方法を記載してください。

8. 結果の報告

測定結果は、報告様式（エクセル）を用い、報告様式中の記載要領(別紙 3)に従いご記入の上、エクセル形式のままメール添付にて様式に記載のアドレス宛に送信してください。

9. 報告期限

2019 年 10 月 21 日(火) (厳守してください)。

10. その他

結果の概要については、学会等において発表させていただくことがありますのでご了承ください。その場合、個別の機関名等が特定されないよう配慮します。